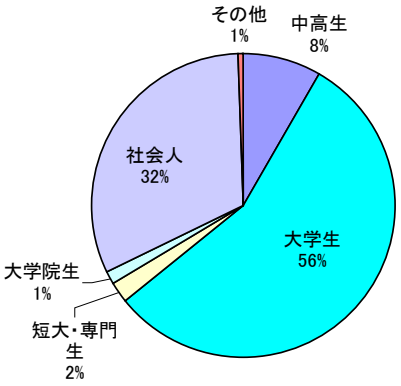
【別紙】

① 就職氷河期と企業のグローバル化ニュースを受け、学生の留学が増加。

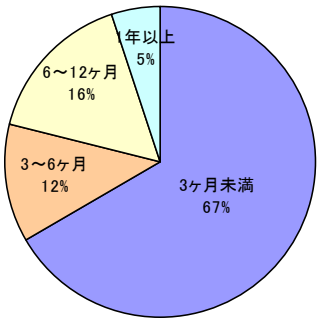
下記のグラフは、それぞれ 2010年に留学ジャーナルから出発された方の職業内訳と留学期間である。

2010年に留学ジャーナルから出発された方の職業内訳は、学生が67%、社会人32%。前年と比較すると**高校生、大学生が**大幅に増加し、ともに**前の年を約3割上回った**。社会人の内訳では64%が20代、30代は24%で、前年と比較して20代が若干増加。社会人で顕著な伸びがみられたのは40代であった。

留学期間としては、3ヵ月未満が前年より4%増え、全体の67%と最も多かった。特に、高校生と大学生の春・夏休みを利用した**短期留学の伸びが顕著**だった。また、**大学生においては**、語学＋インターンシップや大学エクステンションの専門課程への**一年間留学など、専門留学が倍増**したことも2010年の傾向としてあげられる。若者の内向き志向が懸念される中、就職氷河期と企業のグローバル化のニュースを受け、ここにきて、**グローバルスキルを身に付けようと動き始めた大学生もいる**と推測する。



2010年留学ジャーナル出発者の職業

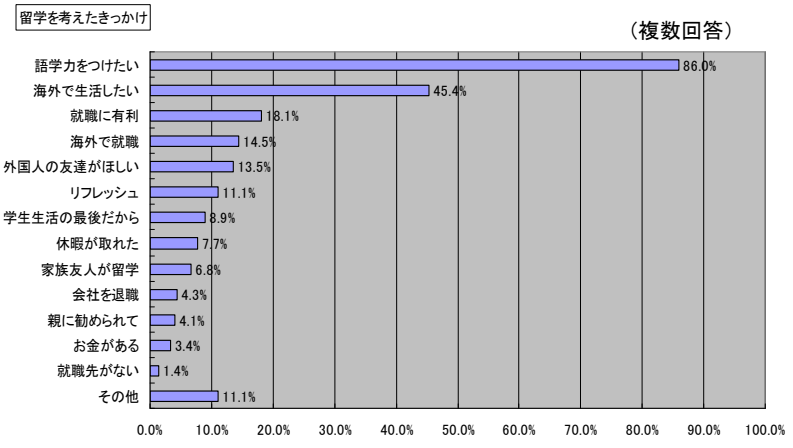


2010年留学ジャーナル出発者の留学期間

② 留学の動機は、1位「語学力」、2位「海外での生活」、3位「就職」。

留学の動機トップは「語学力をつけたい」、次いで「海外で生活したい」。「就職に有利」が3位。
（右記グラフ参照）

「海外で生活をしてみたい」といった**漠然としたあこがれ**のようなものは、**社会人女性**に顕著な傾向としてみられ、**男性の場合**は、**学生、社会人ともに**「会社で必要だから」「会社の勧め」「仕事につくため」といった**具体的な必要性が多く見られた。**

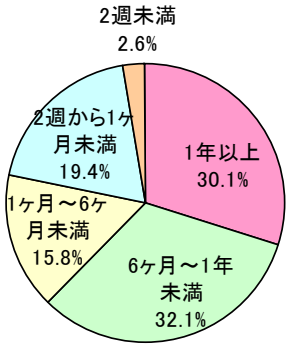


留学ジャーナルカウンセリングセンターへの来訪者に、2010年10月~12月に実施したアンケート調査結果より (N=828)

【別紙】

③ 大学生の62%が半年以上の留学を希望。現実は2ヵ月以内の留学が主流。阻むものは「留学費用」か。

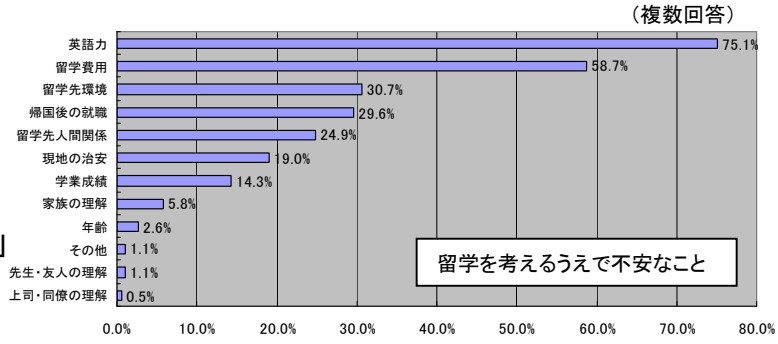
右記のグラフは、2010年10月～12月に留学ジャーナルカウンセリングセンターを訪れた大学生に「希望する留学期間」、「留学を考えるうえでの不安なこと」、「留学費用の捻出方法」について聞いたアンケート結果である。(N=380)

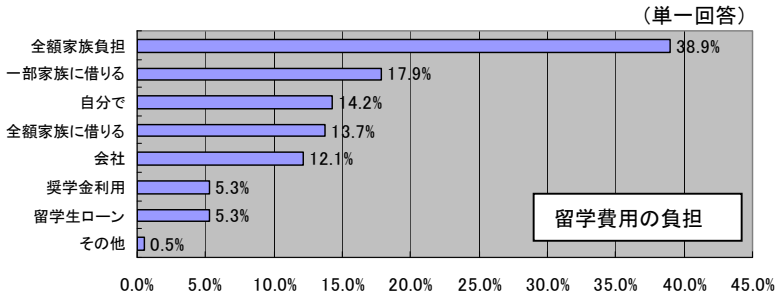


大学生の留学希望期間

大学生が希望する留学期間として、半年～1年と回答した割合が全体の32.1%で最も多く、次いで1年以上が30%となっている。一方、2010年に留学ジャーナルを通して出発した大学生の64%が2ヵ月以内の留学であったことを考えると、本来の希望と現実にギャップがあるようだ。

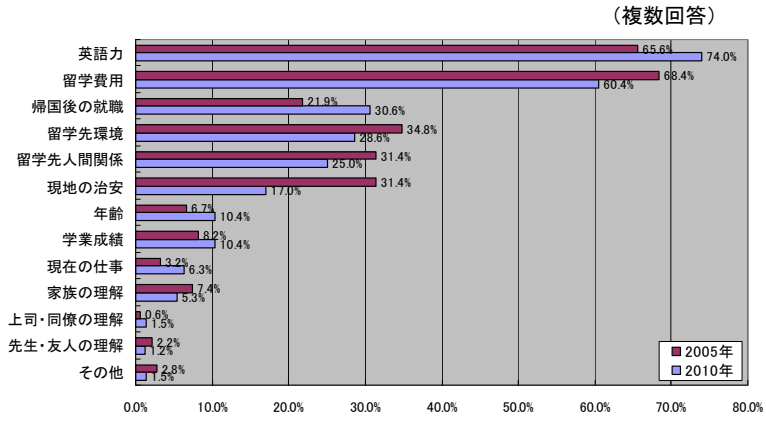
留学を考えるうえでの不安な点について聞いたアンケートでは、75%が「英語力」を、次いで58%が「留学費用」をあげている。その費用について、全額家族に負担してもらうという回答は半数に満たず、自分でアルバイトをして、不足分を家族に借りる学生も多い。そのため、**本来希望する留学目的を達成するための十分な費用を捻出できずに、留学期間を短縮したり、留学そのものを断念する学生も少なくないようだ。**





④ 留学をするうえでの一番の不安は「留学費用」から「英語力」に。(大学生・社会人)

下記は、留学ジャーナルカウンセリングセンターへの来訪者に2005年と2010年に「留学をするうえでの不安」について聞いたアンケート結果である。
(2005年N=940, 2010年N=828)



2005年に実施したアンケート結果では留学をする上での不安として「留学費用」と回答する割合が68.4%で最も多かったが、2010年では8%減少。一方、**「英語力」をあげる割合が約9%増加し、不安のトップとなった。また「帰国後の留学」も約9%増えた。**

英語力を不安にあげる要因は、単に「通じるか」というものより、**帰国後の就職に活かせるだけの留学ができるレベルにあるか、という不安に変わっている**のではないかと推測できる。